

3 / 16 校長講話

先週、6年生の皆さんが奉仕活動をしてくださいました。

下学年の皆さんが気持ちよく使えるようにと様々な場所をきれいにしてくれたり、整理してくれたりしました。とてもありがたいです。なんでお礼を言いましょう。ありがとうございます。

さて、皆さんは「風の電話」を知っていますか。

岩手県にある、電話線が繋がっていない「心で話す」ための電話ボックスです。2011年の東日本大震災後に広く知られるようになり、亡くなった方や行方不明の方へ思いを伝えたい人々が、受話器を通じて、語りかける場所として、全国から多くの方が訪れているそうです。

ある日、震災などで亡くなった大切な人と話すため「風の電話」を訪れた人がいます。男の人が泣きながらこの「風の電話」の受話器に向かって話し始めます。「ごめんなさい」と…。

15年前の3月11日…そう大きな大きな地震があった日の朝の話でした。

男の人は、出かけるのを見送ってくれた母とのやりとりを思い浮かべ、風の電話に語りかけます。

「あの日、急いでいる僕の身を案じて『急ぐなよ』って声をかけてくれたのに、何も返事をせず少しイラッとした感じでそのまま・・・ごめんなさい」。

それがお母さんとの最後の別れだったそうです。その日の午後2時46分、大きな大きな地震が起きてお母さんは亡くなったのです。男の人は、朝、お母さんにそのような態度をとってしまったことを「後悔」しているそうです。

「今このように過ごしているのは、当たり前ではない」ということに改めて気付かされました。

で…あるならば私は、1日1日を大切に笑顔で過ごしたいし、皆さんにもこれからの人生、1日1日を大切に笑顔で過ごしてほしいです。

私はいつも皆さんがそうなるように祈っています。